

N1™ Grid Console — Container Manager 1.0

シンプルな集中管理で、容易なサーバ統合を実現



Key feature highlights

単一のサーバ上の資源を仮想化する管理モデルの提供

ビジネスの目的に合わせて柔軟に計算能力を配備可能

複数システムにまたがるContainerの作成 / 削除 / 変更を1箇所から制御可能

アプリケーション資源の監視 / 視覚化 / 警告を提供

キャパシティ・プランニングや高度な課金モデルを可能にする資源のトラッキングにより、資源の有効活用を実現

ITエキスパートの皆様がご存知のように、サーバ統合はサーバやアプリケーションで構成された大規模なネットワークの増え続ける管理費用を抑制するための、有効な手立てのひとつです。コスト削減に加え、最適化されたハードウェア運用の効率化や、エンドユーザ・サービスレベルの向上など、サーバ統合による恩恵はその投資に充分見合うものです。しかしながら、複数のサーバに分散されたアプリケーションの統合は、提供するサービスレベルに影響する干渉の原因になる場合もあります。

アプリケーションの干渉を未然に防ぎ、全ての資源を統合して提供可能なサービスレベルを更に明確化するため、SunはN1 Grid Containersテクノロジーを開発しました。これにより、固有のIPアドレス / メモリ空間 / ファイル領域 / ホスト名 / rootパスワードを持つ最大4,000のセキュアで完全に独立したソフトウェア領域 (Container) の提供が可能です。さらに、ハードウェア資源の有効活用や、システム管理者が管理可能なサーバ数の向上も期待できます。

N1 Grid Containersテクノロジーは、以下の機能を提供します。

- ビジネスの目的に合わせて柔軟に計算能力を配備可能な資源管理
- 各Containerを独立化し、障害やデータから分離
- 各Container毎へのアクセス制御を含むセキュリティ機能の提供

N1 Grid Containersテクノロジーは、“managing *n* computers as 1”を指針に次世代データセンター向けビジョン / アーキテクチャ / 製品群を提供する、SunのN1 Grid Systemの核を成すエレメントです。

効率化とコストの削減

Containerの管理を容易にするため、SunはN1 Grid Consoleを開発しました。N1 Grid Containersで提供される資源管理を行うのがContainer Manager

1.0です。N1 Grid Consoleにより、以下が可能になります。

- Containerの作成 / 管理でコストと複雑性を削減
- 複数システム間のContainerを集中して管理
- 関連情報を表示するウィンドウを開くことが可能なGUI (Graphical User Interface) を提供しサーバ統合を簡素化

独自の管理機能

N1 Grid ConsoleをSun™ Management Centerへ追加することで、システム管理者はSolaris™オペレーティングシステムで提供されている機能と同様に利用することができます。Containerへの命名 / 作業負荷の設定 / 利用可能な計算資源の特定 / 各アプリケーションへ最大でどれだけの資源を割り当てるかなど一連の機能は、Container管理GUIを介してシステム管理者に提供されます。

N1™ Grid Console — Container Manager 1.0

GUIで管理されるContainerによって、1台から数百台に至るまでのサーバの集中管理システムが実現します。このGUI環境を利用することで、どの資源が利用可能であるかの見極めだけでなく、各Containerがどのようにセットアップされているかを視覚的に確認することが可能になります。独自の検索機能によりシステム管理者は特定のバージョンのオペレーティングシステムなど、意図する特長を備えたシステムを即座に見つけ出すことができます。

Containerは容易に複製ができ、同じ定義で複数のシステムにわたって実装が行えるため、作業時間の短縮が可能です。複数のシステムでアプリケーションの水平拡張を行う時や、他のシステムの負荷を軽減するため類似した定義 / 設定でアプリケーションを実装する際、これはとても有効な機能です。

「各システムにどれだけのユーザがアクセスしているのか?」、「どの程度有効にアプリケーションは稼働しているのか?」、「資源に過不足はないか?」など、優れた管理を行うためにシステム管理者は一定したフィードバック情報が必要になります。N1 Grid ConsoleのContainerとプロセス監視機能の利用で、システム管理者はContainerの状況を確認でき、いつでも詳細な情報を閲覧することが可能になります。システム管理者はホスト / Containerビューを介して、課金処理や障害発生時のトラブルシューティングなど特定のシステムを見つけ出すことが更に容易に行えます。

自動ジョブ変更機能がContainer資源の割り当てを日次 / 週次 / 月次単位でスケジュール化し、管理作業の多くを占める繰り返し作業から解放します。現場への人員配置に必要な経費削減だけでなく、人的エラーの排除にも役立ちます。情報のグラフ化で、システム管理者によるアプリケーションやシステムの状態を把握を支援します。グラフはオンデマンドで生成されるため、表示される稼働状況やパフォーマンスの情報は常に最新の状態に保たれます。N1 Grid Consoleに用意されているシンプルなタブが、利用する情報をMicrosoft Excelなどサードパー

ティ製アプリケーション形式での書き出しをサポートしているため、課金業務などとの連携も容易に行えます。

さらにN1 Grid Consoleのアラーム管理機能が各Containerへのアラーム設定を可能にし、資源の枯渇で発生する問題に対して、事前に対応することが可能になります。システムは、予め設定されたしきい値に達すると、どのシステムを調査すべきかをEメールで伝えます。この機能で、システム管理者は各システムのログを詳細に調べることなく、ネットワーク上にある全てのシステムの監視が可能になります。

今、すべてをシンプルに変える

Sunは、オープンで互換性のあるお求めやすいソフトウェア・システムを各種取り揃え、IT基盤の効率的な稼働を支援しています。各ソフトウェア製品はUNIX®とJava™をベースにシステムとして統合され、高いセキュリティと可用性、下位互換性を備えています。Sunのソフトウェア・ポートフォリオには、Solaris(SPARC®版およびx86版)とLinux、ダイナミックなコーディリティ・コンピューティングに最適なN1 Gridプラットフォーム、そしてSun Java Systemが用意されています。

Sun Java Systemは、企業が必要とするソフトウェアの購入 / 開発 / 管理をこれまでになくシンプルにする画期的なアプローチで、豊富な実績と広範なソフトウェア・ポートフォリオを持つSun以外には真似のできないユニークな戦略です。Sun Java Systemを利用すれば、ネットワーク・サービスや基幹ビジネス・アプリケーションを迅速に立ち上げ、コストも従来以上に軽減することが可能です。余裕をもってイノベーションや競争、売上増強に専念できます。

Sun Microsystems, Inc. について

1982年の創業以来、Sunはお客様の声にお応えし、お客様のビジネスの成長支援、コスト削減への貢献、企業競争力の増進に努めてまいりました。Sunは業界でもっとも堅牢なハードウェア / ソフトウェア / サービス、そしてコンピュータ・ネットワークの源流となるテクノロジーを提供しています。

プラットフォームと要件

現在Sunが提供しているシステムは、基本的にN1 Grid Consoleでの管理が可能です。詳細な情報はsun.co.jp/software/sys-mgt/sunmanagementcenter/に記載のSun Management Center 3.0構成 / 導入ガイドを参照してください。

サポートしているオペレーティングシステム

エージェント層

- Solaris 8(SPARC版)以降の各リリース
留意点:Solaris Resource Manager 1.3ソフトウェアがインストールされている必要があります
- Solaris 9(SPARC版 / x86版)以降の各リリース

サーバ層

- Solaris 9(SPARC版), Solaris 8(SPARC版)以降の各リリース

コンソール・ブラウザ

- Netscape™ 4.7x / 6.2x / 7.x(Solaris 9, Solaris 8)
- Netscape 4.7x / 6.2x / 7.x(Microsoft Windows 98 / 98 Second Edition / ME / 2000 / XP)
- Microsoft Internet Explorer 5.x/6.x(Microsoft Windows 98 / 98 Second Edition / ME / 2000 / XP)
- Mozilla™ (Solaris 9, Solaris 8, Linux)

詳細
N1™ Grid Console — Container Manager 1.0の
詳細については、
sun.co.jp/software/sys-mgt/grid_console/
をご覧ください。

サン・マイクロシステムズ株式会社

本社	〒158-8633 東京都世田谷区用賀4-10-1	SBSタワー	電話(03)5717 5000(代)
山王オフィス	〒100-6160 東京都千代田区永田町2-11-1	山王パークタワー12F	電話(03)4232 2400(代)
中部支社	〒460-0002 名古屋市中区丸の内2-14-4	エグゼ丸の内507	電話(052)203 1233(代)
大阪支社	〒541-0052 大阪市中央区安土町1-8-15	野村不動産大阪ビル5F	電話(06)6265 5700(代)
九州支社	〒814-0001 福岡市早良区百道浜2-1-22	福岡SRPセンタービル3F 308	電話(092)834 0101(代)
つくば営業所	〒305-0032 茨城県つくば市竹園1-6-1	つくば三井ビルディング11F	電話(0298)561 2210(代)
豊田営業所	〒471-0833 愛知県豊田市山之手5-73-1	山之手ビル7F	電話(0565)25 5701(代)
ホームページ	http://sun.co.jp/		



© 2004 Sun Microsystems, Inc. All rights reserved. Sun, Sun Microsystems, サンのロゴマーク, Java, N1, N1のロゴマーク, Solaris, は、米国Sun Microsystems, Inc.の米国およびその他の国における商標または登録商標です。すべてのSPARC商標は、米国SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC商標がついた製品は、米国Sun Microsystems, Inc. が開発したアーキテクチャに基づくものです。UNIXは、X/Open Company Ltd.が独占的にライセンスしている米国およびその他の国における登録商標です。Netscape, Mozillaは、Netscape Communications Corporationの米国およびその他の国における商標または登録商標です。本文中に記載の各社の社名、製品名は、各社の商標または登録商標です。資料の内容は、お断りなしに変更することもありますのでご了承ください。